

資料2

護岸整備事業の評価

整備場所	香椎浜護岸	御島崎～片男佐海岸	香住ヶ丘護岸	和白塩浜護岸	
目的	歴史性を活かし、自然石石積護岸とする。野鳥保全のため急傾斜とし海域への立ち入りを規制	歴史性を活かした海岸整備。海生生物の生息環境に配慮し自然石の石積護岸と養浜を行う	斜面崩落区間の安全性向上のため護岸を設置。海岸へのアクセス性を高め景観にも配慮して緩傾斜自然石護岸とする	老朽化護岸の再整備を行い、海岸の安全性の向上を図る。護岸は生態系に配慮したも石積護岸とする	
整備内容	遊歩道、護岸、公園	遊歩道、護岸、養浜	遊歩道、護岸	遊歩道、護岸、植栽	
配慮事項	ハクセンシオマネキ生息地周辺では陸上からのつり下げ式で工事。カニ類の生息環境拡大をねらって護岸沿の一部に砂入れ	散策等の休憩場を設置。香椎宮の神事が行えるよう配慮	地元の要望を受けて階段式の護岸とした	干潟部の改変を避けるため陸上から工事。生物への配慮でカニが上れる構造や鳥の休憩場を設置。江戸時代の旧護岸は埋込保存	
環境面の効果	底生生物	護岸間隙にケフサイソガニや貝類が生息 砂入れ部でもコメツキガニが生息	養浜部に新たにハクセンシオマネキが生息。アサリなどが増加。石積部でケフサイソガニや貝類が生息	護岸間隙に貝類が生息	護岸間隙にカクベンケイガニや貝類が生息
	鳥	変化なし	砂浜周辺ではカモメ、カモなどが見られている	変化なし	鳥の休憩場としての利用を確認
	人の利用	隣接する公園と一体的に利用されており、散策等が増えた	多くの人が散策等に利用しており、潮干狩りも行われるようになった	散策等の利用が増え、周辺砂浜の一部では潮干狩りもみられる	工事中で未供用